

### main seminar 「お天気と服とエコ」 気象キャスター 松井 渉氏

#### ■今年のお天気

九州を拠点に気象キャスターとして活躍されている松井渉氏に「お天気と服とエコ」と題して講演いただきました。

この夏は平年より暑い日が多かったようで、最高気温が35度を超える猛暑日が北九州で2日、福岡で10日ありました。6月～8月の平均気温は平年より0.7度高かったです。

#### ■ヒートアイランド現象と子ども達への影響

猛暑が続くとよく言われるのが「ヒートアイランド現象」です。ヒートアイランド（熱の島）とは、日中にコンクリートやアスファルトが吸収し夜間に放出する熱や、冷暖房・自動車などから出る熱によって気温が上がる現象のことです。他にも緑が少ないこと、風を遮るビルが多いことなどが原因としてあります。

このように暑い日が続くと、心配されるのが熱中症です。

気温・湿度が高く、また体調の悪い時などは熱中症になりやすく注意が必要です。特に体温調節がうまくできない乳幼児や暑さを感じにくい高齢者は熱中症による死亡数も多いそうです。

また炎天下のアスファルトでは大人の頭部周辺が30度の場合、より路面に近い子どもの頭部周辺は39度にもなり、熱の影響を大人よりも大きく受けています。

熱中症予防のポイントとしては、1. 炎天下で活動をする場合には薄手の白っぽい衣服を着用し、通気性のよい帽子をかぶる。2. 外出時には（熱を遮る）黒っぽい日傘などがお奨め。3. ノーネクタイやループタイを着用するなど、身体にぴったりした衣服よりも、少し緩めの衣服で衣服内の風の流れをよくなり、熱の放散を促す。といった点に気を付けることが大切です。

#### ■紫外線の影響と衣服

また紫外線も近年問題視されています。紫外線の中でもUV-Bは、一部が地表に到達し日焼けを起こしたり皮膚がんの原因となります。UV-AはBほど有害ではなりませんが、長時間浴びた場合、健康影響が懸念されます。

紫外線量に関しては、夏場をピークに春から初秋まで多く、快晴の日はもちろん薄曇りの日でも多くの紫外線がふりそそいでいます。

特に近年は「子ども達には紫外線を浴びさせない方がよい」ということになってきていて、小さな子たちが紫外線を遮るタレ付帽子をかぶっている姿をよく見かけます。オーストラリアやニュージーランドでは、衣服の紫外線遮蔽効果を表す指標としてUVF（UV Protection Factor）があり、紫外線から身を守る衣服を選ぶ指標が示されています。

#### ■進む温暖化

猛暑や暖冬が問題となる年が多く、また長いスパンで見ても地球全体の気温は確かに上がってきています。この100年で世界の平均気温は約0.7度上昇しました。気温が上昇すると、空気中の水蒸気量が増加し大雨の頻度が増え、台風が発達しやすくなります。

「21世紀末の天候」は、気温の上昇や夏場の降水量の増加、豪雨の増加、非常に強い台風の増加など、私達の生活に大きな影響を与えそうなお天気の変化があるのではないかとのことでした。



#### 講師プロフィール



#### 松井 渉 (まつい わたる)

気象予報士、技術士(応用理学部門)、福岡大学非常勤講師

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻修士課程修了。

現在、NHK福岡放送局

「ぐるっと8県九州沖繩」の

気象キャスターとして活躍中。

### sub seminar 「服育について」 服育研究会 有吉 直美

服育の概念とともに「環境」「社会性」分野における具体的な活動内容についてご紹介させていただきました。

### 服育リサイクルセンター見学

セミナー後は、場所を服育リサイクルセンターへ移し、古着として回収された衣服がどのようにリサイクルされるのか見学しました。

衣服のリサイクルについての説明を受けた後、実際にリサイクルを行っている現場へ入りました。着なくなった服をそのまま捨ててしまえばただのごみですが、きちんと分別してリサイクルすることで自動車の内装材などに生まれ変わります。

